

平成29年11月17日(金) 21紀州

紀州鉄道の車両を再活用

市民と交流の場に

御坊市本町商店街振興組合(坂井和夫代表理事)は、紀州鉄道で廃車になっているディーゼル車を再活用して顧客誘致を図ろうと4日、列車の移設を行った。大型クレーン2台を使って展示用線路へ移設する作業に、遠来からも鉄道ファンが訪れ盛んにシャッターを切っている。

スムーズに移設作業

再活用される車両は、これまで大分県や紀州鉄道の老朽化のため平和35年に製作された道で計約76万キロ走って成24年から廃車となっていた。紀州鉄道で保管され、

振興組合が車両を展示活用して『列車のある商店街』としてアピールしていこうと廃車を購入した。

移設作業は、高さ約20メートルの大きなクレーン車2台で吊り上げ、隣りに新たに敷設した線路(延長約30メートル)の上にスムーズに据え付けた。列車を吊り上げるシーンは滅多に見られないとあって、鉄道マニアらが車両が線路から浮き上がる決定的瞬間をカメラに収めていた。

大型クレーンで吊上げられる「キハ603」

商店街振興組合は、この車両の内部を改装して、たこ焼きや丼物を販売したり、コミュニケーションスペースとして絵本の読み聞かせや地域住民が集える場として活用していく。

